

講座番号

11

子ども向け

対面

ツアーリと仏の出会い（高校生向け）

ユーラシアを駆けるチベット仏教とロシアの歴史

募集期間	6月期 令和8年4月1日（水）～30日（木）		
講座概要	ロシア帝国と仏教は、18世紀以降のユーラシア世界における重要なテーマです。本講座では、隣国ロシアがチベット仏教徒を統治し、仏教を国家秩序の一部として制度化していった歴史を考察します。また、仏教側が皇帝を“菩薩の化身”と表象するなど、主体的に体制に対応した柔軟性にも注目します。この歴史を通して、現代の多民族国家における宗教と国家の関係を考えるヒントを探ります。		
目的	・隣国ロシアと宗教の関係を学ぶ。 ・仏教の多様性を学ぶ。		
講師	井上 岳彦	所属	多文化教育系 グローバル教育部門
受講対象	子ども向け（高校生）		
受講料	無料	定員	一般市民向けと合わせて40名
実施方法	対面（全2回）	開催方法	天王寺キャンパス
注意事項	保護者の方が参加される場合は講座番号10（一般市民向け）にお申込みください。		
持参物	筆記用具		
備考	資料は印刷して配布します。		

回	日程	時間	内容
1	6月6日（土）	10:15 ～ 12:00	ユーラシアを駆けるチベット仏教とロシアの歴史（1）
2	6月13日（土）	10:15 ～ 12:00	ユーラシアを駆けるチベット仏教とロシアの歴史（2）

～講師プロフィール～

井上 岳彦（多文化教育系 グローバル教育部門）

私の主な研究テーマは、アジアとヨーロッパの関係史、特にロシアの仏教徒の歴史です。彼らの移動性に着目しながら研究を進めてきました。このほか、動物と人間の関係史（環境史）やオルタナティヴ医療史の研究にも取り組んでいます。大学教育においては、教育協働学科でグローバルヒストリーを中心に「グローバルサウス」に着目した授業を展開しています。教員養成課程では西洋近現代史をメインに据え、グローバル社会における歴史教育のあり方を学生と議論してきました。本講座では、ヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアが仏教徒と歴史的にどのような関係を築いてきたのか、現在どのような関係にあるのかを一緒に考えたいと思います。